



株式会社エフテック 第58期 報告書
平成24年4月1日～平成25年3月31日





代表取締役社長 木村 嗣夫

事業の構造改革を実施し、業績のV字回復を目指します。

国内事業は自動車小型化の進行により縮小を余儀なくされた一方、海外事業では生産・販売とも堅調に推移いたしました。

第58期において、国内では主要得意先の国内生産が付加価値の少ない軽自動車中心となりました。また、日中関係の影響から中国での日本車販売が減少し、中国向け輸出部品が減少いたしました。海外においては、中国で日本車販売低迷の影響があったものの、北米およびタイにおける自動車生産・販売は堅調に推移いたしました。

こうした状況の中、当社グループは国内市場縮小への対応と海外市場での事業拡大を推進するため、国内生産体制の見直しと人員の適正化を軸とする事業構造改革を実施いたしました。

この結果、当期の連結業績は、売上高1,440億89百万円（前期比10.3%増）、営業利益44億79百万円（前期比4.9%減）、経常利益45億74百万円（前期比5.3%増）、当期純損失31億31百万円（前期は当期純利益16億57百万円）となりました。

国内外の環境変化にあわせた、組織、生産体制を構築してまいります。

第58期において実施した構造改革ですが、国内事業については日本の自動車産業における構造変化を受け、国内市場での収益を確保するため、現在の市場規模に見合った組織体制と生産能力の整備を目標に据えています。また、海外事業については、市場の変化に即応するため、海外独自でいち早くアクションを起こせるよう、海外に一定の権限を委譲いたします。こうした観点から、海外では営業、開発、技術、購買、品質の各機能を持つ自律的事業完結体制の構築に着手いたしました。このため、海外市場での事業拡大に向け、日本から60名ほどの新規海外駐在員を各拠点に増強配置することといたしました。

また、組織面においては、部門の垣根を越えてスピーディな経営施策に取り組める体制を目指し、組織を7本部2室から4本部2室へと改編するとともに、希望退職者募集を行い、人員の適

正化を図りました。

こうした取り組みによって、経営資源の成長市場への重点的な配分を進め、経営環境の変化にスピード感をもって適切に対応できる組織体制、各地域内での最適化された生産体制の構築、管理機能の強化を図ってまいります。

生産能力の増強とともに、技術開発力の飛躍的向上を図ることで海外市場における付加価値の高い事業拡大を目指します。

当社グループは、今後の成長が見込まれる海外市場での事業拡大を目指

して、メキシコおよびインドネシアの2拠点で工場建設に着手し、グローバルな生産体制の拡充を図ります。また、北米やアジア地域で、ゼネラルモーターズをはじめ複数の自動車メーカーから新規受注を獲得するなど、順調な拡大が見込まれております。こうした成果は、これまで当社が進めてきたグローバルな4極開発体制を基盤とした提案型の営業活動が実を結んだものであります。

こうした生産面、営業面での取り組み強化に加え、技術開発においては、鉄とアルミニウムをFSW（摩擦攪拌接

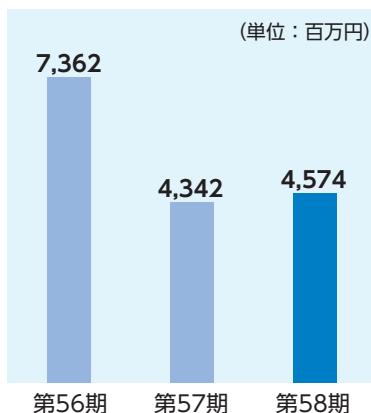
合）で接合する技術を本田技研工業と共同開発し、世界で初めて量産化に成功いたしました。この技術は北米市場で販売を開始した新型「アコード」のフロントサブフレームにいち早く採用され、高い評価をいただいております。

今後とも当社グループは、将来を見据え、新たなビジネスチャンスづくりに貢献するコア技術の開発に取り組み、グローバル・サプライヤーとして市場優位性を確保するとともに、付加価値を生み出すことで、市場の拡大を図っていきたくと考えております。

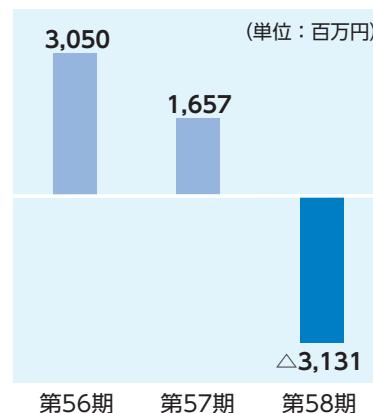
売上高(連結)



経常利益(連結)



当期純利益(連結)



58期は国内市場縮小への対応と海外事業拡大を同時に達成させるべく抜本的な事業構造改革に取り組むことが急務であると判断し、国内生産体制の見直しと人員の適正化を実施いたしました。この結果、国内における事業構造改善費用として、亀山事業所の固定資産減損損失3,472百万円並びに特別退職金等1,447百万円を計上しております。



グローバル・サプライヤーとしての地位をより強固なものとするため、他業種やメーカーとの研究開発を積極的に推進してまいります。

第59期は、現在、着手している構造改革を早急に仕上げ、国内業績のV字回復を図ることが大きな目標となります。こうした取り組みと並行して、第60期から始まる第12次中期経営計画の基盤づくりに取り組んでまいります。

これまで当社は、グローバル・サプライヤーとしての地位をより強固なものとするための事業活動を展開してまいりました。第12次中期経営計画では、市場をリードする製品づくりを行うため、モジュール機能の開発に取り組み、モジュール適用範囲を拡大することで、グローバル市場に供給できる体制づくりを行っていきたくております。そのため、他業種とのコラボレーションをはじめ、日系メーカー

や海外のメーカーとの共同研究、共同開発を推進してまいります。こうした取り組みを加速すべく、欧州にリサーチ部門を担う事務所を開設したいと考えております。

グローバル経営をさらに進めるためには、会社が変わっていくことはもちろんですが、従業員の意識も変わっていかねばなりません。今後拠点ごとの責任と権限が増していく中、当事者である従業員一人ひとりが現場力をアップさせ、チーム、さらに拠点の体質強化を進めていく必要があります。このため、当社グループは、ムリ・ムラ・ムダをなくすことを目的にした「からくり改善」と呼んでいる現場力の強化に努めております。拠点として完結し、責任もてる、しっかりとした組織を作り上げていく。それがグループとしての総合力につながります。

国内と海外との役割をより一層明確にし、スピード感をもって経営にあたってまいります。

市場ニーズを先取りし、業界の基準づくりができるような役割を担う企業にならなければ、激動する市場の中で生き残っていくことはできません。また、スピード感をもって経営にあたらなければ、市場についていくことすらむずかしくなってきます。第59期にお

いては、国内の役割と海外の役割がこれまで以上に明確になってきます。このため、国内で新たなビジネスチャンスを生み出すコア技術の開発や多様な製品を企画し、海外で生産を行うといったグローバルな事業体制の構築を目指してまいります。

最後になりましたが、当社は業績に基づく利益還元を基本とし、財務体質の強化を図りながら、株主の皆様への利益還元を図ってまいりました。第58期においては構造改革の実施に伴う特別損失を計上したことから、期末配当につきましては誠に遺憾ながら見送らせていただきました。今回の特別損失計上はあくまでも一過性のものと考えており、第59期では配当性向の10%以上を配当方針に掲げ、1株当たり中間配当10円、期末配当10円の年間20円の配当を実施すべくグループ一丸となって取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、今後ともご理解ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2014年3月期の連結業績予想

売上高	161,000百万円
経常利益	6,250百万円
当期純利益	3,200百万円
1株当たり当期純利益	258.96円

特許18件！ 鉄とアルミニウムをFSWで接合する技術を開発し、世界で初めて量産化に成功

当社グループは、新たなコア技術や加工法の開発など、将来、事業の核となり得る研究開発へ積極的な投資を行い、「攻めの開発」を追求してまいりました。

その成果として、FSWという鉄とアルミニウムの異材接合による軽量化技術を本田技研工業と共同開発し、世界で初めて量産化に成功いたしました。この技術は、部品の大幅な軽量化と電力をはじめとする製造エネルギーの低減を目指し開発されました。また、製造工程で、溶接ガスや有害な光線も出さず、静かに接合するため、作業環境の改善に貢献するといった特徴があります。

現在、北米市場で販売する「アコード」のフロントサブフレームに採用されておりますが、今後、ほかの足廻り部品へと拡大し、海外市場での販路および受注の拡大を目指してまいります。また、鉄とアルミニウム以外の異なる部材との接合を実現すべく、引き続き研究開発を進めてまいります。

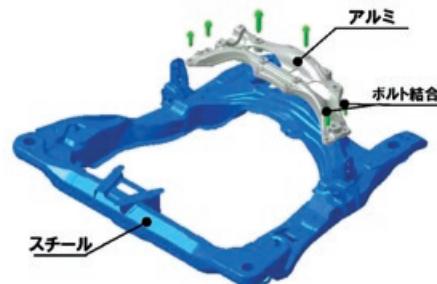
開発成果

- 大幅な軽量化……………△25%
- 製造エネルギー低減
省電力化……………△50%

FSWとは

FSW（摩擦攪拌接合）は、ツールの回転で摩擦熱を起こして部材を軟化させ、攪拌して接合する技術です。鉄の上に重ねたアルミニウムをツールで攪拌していくと、やがてツールは鉄の表面部に到達し、鉄を削り始めます。このとき、アルミニウムと鉄が混ざり、新たに合金が生成され、これが継ぎ手となって接合されます。この技術を活用するうえで重要なことは、いかにツールを制御し、正確に一定量の鉄を削るかということにありました。こうした難問をクリアし、世界初のFSWによる量産化を実現いたしました。

従来 ACCORD スチールとアルミをボルト結合



新 ACCORD スチールとアルミをFSW連続結合



中国R&D (研究開発) 拠点が本格稼働。 メキシコとインドネシアに生産拠点を設立。

当社グループは、海外市場での事業拡大を目指し、開発拠点並びに生産拠点の拡充に努めてまいりました。開発部門では、2011年設立した中国におけるR&D (研究開発) 拠点「偉福 (広州) 汽車技術開発有限公司」が加わったことで、日本、中国、フィリピン、北米を結ぶグローバル4極開発体制を本格的にスタートさせました。また、生産部門では複数の自動車メーカーからの新規受注を獲得するため、生産拠点の戦略的な配置を行ってまいりました。こうした観点から、第58期において、メキシコとインドネシアに新たな生産拠点を設立いたしました。今後についても、当社グループは、開発拠点、生産拠点が一体となってグローバル化を推進し、提案型の営業活動を行うことで海外市場での競争力強化と市場の拡大に努めてまいります。

●メキシコ新工場

拡大を続ける北米・メキシコ市場でのビジネス拡販と生産供給体制、事業安定化を図る。



社名	F&P MFG. DE MEXICO S.A. DE C.V.
生産開始	2014年 7月
投資額	26,098千US\$
生産体制	溶接・塗装・組立 (北米地域における相互補完体制を新たに構築)
主要取引先	HONDA GM

●中国R&D (研究開発) (広州)

世界中のメーカーから受注を獲得すべく、開発力を強化、競合他社との差別化を図る。



●インドネシア新工場

伸びゆくアジア地域において、新たなビジネスモデルによる競争力を構築、連結収益向上を図る。



社名	PT. F.TECH INDONESIA
生産開始	2013年 9月
投資額	1,142百万円
生産体制	溶接・組立 (アジア地域における相互補完体制を新たに構築)
主要取引先	HONDA

Global Network / Domestic Network



国内拠点

- ★ 本社・久喜事業所
- 亀山事業所
- 芳賀テクニカルセンター

国内グループ会社

- フクダエンジニアリング株式会社
- 株式会社九州エフテック
- 株式会社リテラ
- 株式会社三共プレス工業
- 株式会社城南製作所

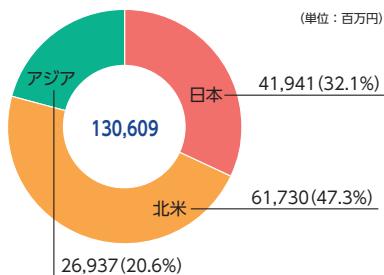
海外グループ会社

- F&P Mfg.,Inc.
- F&P America Mfg.,Inc.
- Dyna-Mig, A division of F&P Mfg.,Inc.
- F&P Georgia, A division of F&P America Mfg.,Inc.
- F.tech R&D North America Inc.
- FEG de Queretaro,S.A.de C.V.
- F&P MFG.DE MEXICO S.A.DE C.V.
- F.tech Philippines Mfg.,Inc.
- F.tech R&D Philippines Inc.
- F.tech Mfg. (Thailand) Ltd.
- PT.F.TECH INDONESIA
- 偉福科技工業(中山)有限公司
- 偉福科技工業(武漢)有限公司
- 煙台福研模具有限公司
- 偉福(広州)汽車技術開発有限公司
- Johnan America,Inc.
- Johnan de Mexico,S.A.de C.V.
- Johnan UK Ltd.
- Johnan F.tech (Thailand) Ltd.
- PT.JFD INDONESIA
- 城南武漢科技有限公司
- Progressive Tools & Components (P) Ltd.

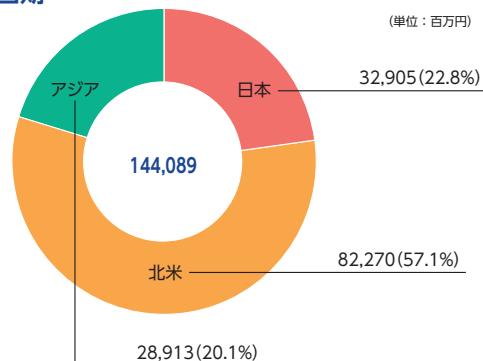


所在地別売上高及び比率（連結）

前期



当期

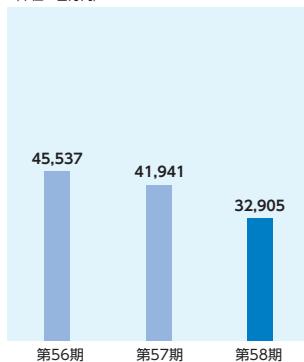


● 日本

震災後の生産調整から国内の自動車生産が回復したものの、主要得意先の販売が軽自動車へと大きく推移したこと、日中関係による日本車販売低迷の影響等により、売上高は32,905百万円（前期比21.5%減）、営業損失は942百万円（前期は営業利益105百万円）となりました。

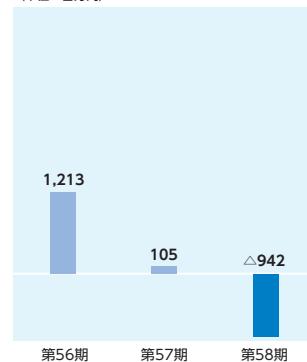
売上高 32,905百万円

売上高
(単位：百万円)



営業損失 942百万円

営業損失
(単位：百万円)

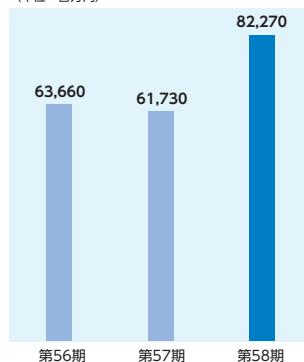


● 北米

北米市場の堅調な新車販売による主要得意先への売上増加、為替の円高修正影響により、売上高は82,270百万円（前期比33.2%増）、営業利益は4,406百万円（前期比42.8%増）となりました。

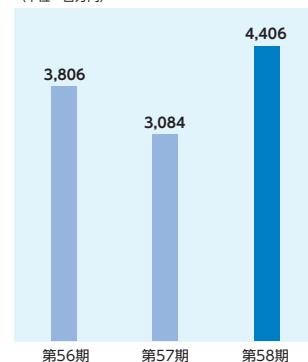
売上高 82,270百万円

売上高
(単位：百万円)



営業利益 4,406百万円

営業利益
(単位：百万円)

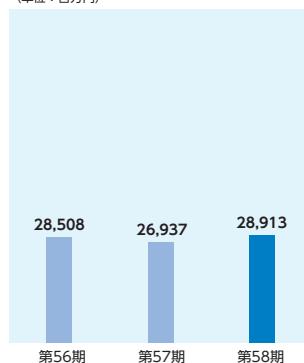


● アジア

タイ洪水影響による減産から回復したものの、日中関係による日本車販売低迷の影響等により、売上高は28,913百万円（前期比7.3%増）、営業利益は993百万円（前期比40.3%減）となりました。

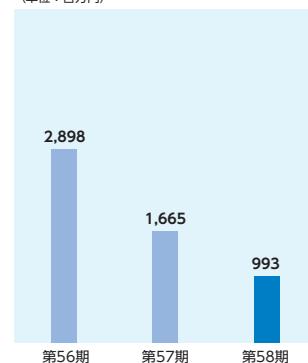
売上高 28,913百万円

売上高
(単位：百万円)



営業利益 993百万円

営業利益
(単位：百万円)



● 連結財務諸表

● 連結貸借対照表 (要旨)

(単位:百万円)

	当期	前期
	平成25年3月31日現在	平成24年3月31日現在
資産の部		
流動資産	39,227	38,433
固定資産	51,972	46,362
有形固定資産	46,444	41,848
無形固定資産	961	1,031
投資その他の資産	4,566	3,482
資産合計	91,200	84,796
負債の部		
流動負債	46,106	40,074
固定負債	18,077	19,500
負債合計	64,183	59,574
純資産の部		
株主資本	16,536	19,871
資本金	2,677	2,677
資本剰余金	3,115	3,115
利益剰余金	10,762	14,102
自己株式	△18	△23
その他の包括利益累計額	△1,443	△4,420
少数株主持分	11,922	9,770
純資産合計	27,016	25,221
負債・純資産合計	91,200	84,796

● 連結損益計算書 (要旨)

(単位:百万円)

	当期	前期
	平成24年4月1日から平成25年3月31日まで	平成23年4月1日から平成24年3月31日まで
売上高	144,089	130,609
売上原価	127,659	114,923
売上総利益	16,429	15,685
販売費及び一般管理費	11,949	10,973
営業利益	4,479	4,712
営業外収益	654	294
営業外費用	560	664
経常利益	4,574	4,342
特別利益	462	1,530
特別損失	5,291	1,481
税金等調整前当期純損益	△253	4,390
法人税等	1,414	1,698
少数株主損益調整前当期純損益	△1,668	2,692
少数株主利益	1,463	1,034
当期純利益	△3,131	1,657

● 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位:百万円)

	当期	前期
	平成24年4月1日から平成25年3月31日まで	平成23年4月1日から平成24年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,450	7,132
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,848	△7,394
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,976	△667
現金及び現金同等物に係る換算差額	416	△158
現金及び現金同等物の増減額	△4	△1,087
現金及び現金同等物の期首残高	5,229	6,317
連結子会社の決算期変更に伴う期首残高増減	79	—
現金及び現金同等物の期末残高	5,304	5,229

● 会社概要 (平成25年3月31日現在)

商号 株式会社エフテック
 本社 〒346-0194 埼玉県久喜市菖蒲町昭和沼19番地
 創業年月 昭和22年7月
 資本金 2,677百万円
 決算期 3月31日 (年1回)
 連結従業員 5,893名

● 役員 (平成25年6月20日現在)

代表取締役社長 木村 嗣夫 **上席執行役員** 飛田 茂晴
(中国地域統括兼偉福科技工業(中山)有限公司総経理)

取締役兼専務執行役員 福田 祐一 **上席執行役員** 竹内 満
(国内統括兼社長補佐) (エンジニアリング本部長)

取締役兼専務執行役員 豊島 健文 **上席執行役員** 外山 守
(開発営業本部長) (ア地域統括兼 F.tech Mfg.(Thailand)Ltd.社長)

取締役兼常務執行役員 豊田 正雄 **上席執行役員** 長谷川 誠
(管理本部長) (開発営業本部営業担当)

取締役兼常務執行役員 藤瀧 一 **上席執行役員** 古澤 好記
(生産本部長) (開発営業本部開発担当)

取締役相談役 福田 秋秀 **常勤監査役** 梅津 啓二

取締役兼上席執行役員 宮岡 規之 **監査役** 依田 英男
(経営企画室長)

上席執行役員 安藤 研一 **監査役** 遠西 昭
(北米地域統括兼 F&P America Mfg.,Inc.社長)

なお、永らくご高配を賜りました晝間勉は代表取締役副社長を退任いたしました。梅津啓二は取締役兼専務執行役員を退任し、常勤監査役に就任いたしました。同じく村岡芳彦、山野正史は、常勤監査役を退任いたしました。

● 株式の状況 (平成25年3月31日現在)

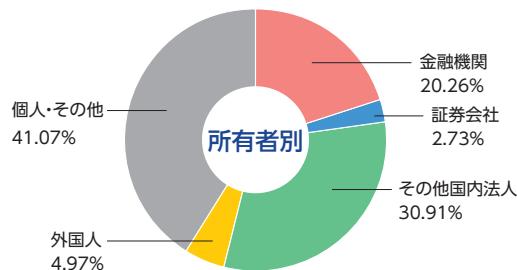
発行可能株式総数…………… 36,360,000株
 発行済株式の総数…………… 12,390,000株
 株主数…………… 4,805名

● 大株主の状況

大株主 (上位10名)	持株数 (千株)	出資比率 (%)
本田技研工業株式会社	2,551	20.60
福田秋秀	1,691	13.65
株式会社埼玉りそな銀行	493	3.98
福田順子	360	2.91
住友商事株式会社	347	2.80
有限会社フクダ興産	339	2.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	292	2.36
エフテック社員持株会	289	2.34
福田治六	287	2.32
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	179	1.45

※出資比率は自己株式 (4,218株) を控除して計算しております。

● 株式分布状況



ホームページのご案内

IR情報開示に関する専用ページから、株主の皆様へ向けて
適時情報開示を行っています。ぜひ一度ご覧ください。



当社HPでは、製品・技術情報、品質への取り組み、最新ニュース等を掲載しています。インターネットを通して発信する、エフテックの魅力の一端をどうぞご覧ください。

住所変更・配当金のお受け取り方法の 指定・変更、単元未満株式の買取について

- 株主様の口座がある証券会社等にお申し出ください。
- 証券会社等に口座をお持ちでない、又は特別口座が開設されることとなった株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

IR掲載コンテンツ

- 社長メッセージ
- 株主総会招集通知
- 業績データ
- 決算短信
- 事業報告
- 株価情報
- 有価証券報告書等
- 電子公告
- 株式に関するご案内
- 決算公告
- IRカレンダー

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、右記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。



※本アンケートは、株式会社 a2media(エーツーメディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」 TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード 7212

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます